

## 第1回 建設候補地選定専門部会 会議録

開催日時：平成23年9月28日（水）14時～16時

開催場所：町田市役所 森野分庁舎

出席委員：松波淳也、百武ひろ子、稲木健志、粕谷羊三、高橋倫正、金田剛、大谷公二、  
高木康夫、佐藤正志、富岡秀行（敬称略）

事務局：宗田隆由、田後真人、内山重雄、水越祐介、千葉雅英、重田和也、深澤香織、  
内山俊典、黒須桂子、菊地賢治、新海良文  
山田行雄、佐藤正心、大塚和美

傍聴者：2名

### 《次第》

（議事）

開会

1. 建設候補地選定専門部会の目的と作業計画
2. 建設候補地選定の手順
3. 施設建設に必要な敷地面積とその組合せ
4. 第4回検討委員会におけるご質問事項への回答
5. 事務連絡

閉会

### ＜配布資料＞

資料1：建設候補地選定専門部会 第1回会議次第

資料2：建設候補地選定専門部会 第1回会議資料

資料3：第4回検討委員会におけるご質問事項への回答

### 《別添資料》

- ・町田都市計画図（配布済みのもの）
- ・町田市洪水ハザードマップ

## 第1回 建設候補地選定専門部会議事録要旨

### 1. 開会

部会長には松波委員、副部会長には粕谷委員が選出された。

### 2. 建設候補地選定専門部会の目的と作業計画

#### 〔市民の意見の反映〕

(百武委員)

作業計画に関しては、12月から、広報、説明を始めるという説明があった。部会の議論で適地が決まった後に広報するのでは、どんな条件で決めたのかという声が市民から来る可能性がある。もっと早い段階で、どんな条件を用いるのか市民に問いかけるべき。そして、どのようなスケジュールで住民との対話をするのかということを計画に組み入れてほしい。また市民への広報について、これまでも実施しているHPでの資料公開以外に、より積極的な周知の方法を考えるべき。

(松波部会長)

資料に「説明会」と記述されているが、「意見交換会」の方がふさわしい。また第3回を待たずに早めに情報を市民に投げかけるとするのはその通りである。

(宗田部長)

ぜひ透明性を高めていきたい。第2回あたりから市民の意見を取り入れるような方向性がよいと思う。

(百武委員)

アンケートも一つの広報の手段である。アンケートを広報の手法として考えているか。

(事務局)

一つの方法として考えている。時期等は委員会で議論いただきたい。資料に説明会と書かれているが、意見交換会という主旨である。その意見交換会を11月、12月あたりに開催することを考えている。

#### 〔整備基本計画部会との関係〕

(金田委員)

整備基本計画部会も開催されている。そこでの議論とは分離して候補地を決めていくのか。

(事務局)

整備基本計画部会とは連動していく。それぞれの部会の意見を吸い上げる、または部会長同士で確認をするなどして、それを本検討部会で再度確認する。整備基本計画部会との意見交換は随時やっていく。

### **3、建設候補地選定の手順**

#### **〔第一次適地選定結果の見込み〕**

(稲木委員)

町田市は市有地をたくさん持っている。自然環境等諸々の条件をクリアする市有地は其中でどのくらいあるのか。

(宗田部長)

諸々の条件を考えるとそこまで多くはない。条件を満たす市有地について、出せる資料があれば出していく。

(松波部会長)

一次選定は客観的な条件の元での選定なので、資料は出せるのではないかと。次回出せる資料があれば出していただけることを期待したい。

(大谷委員)

除外条件が多いため、かなり適地に限られるのではないかと。図面で適地を示してほしい。

(宗田部長)

市資料として出したい。市有地の中で使える土地、物理的に固まっている土地などになる。

(事務局)

都市計画図の中で、用途地域が定められていない、あるいは工業系の利用がなされているエリアが適地選定の基本となる。図面上に整理したものを次回提示する。なお参考までに、市有地で一番広いのはリサイクル文化センターであり、処理施設が50000m<sup>2</sup>、全ての敷地面積を合わせると83000m<sup>2</sup>となる。

(高橋(倫)委員)

市有地の中で公園はどの程度あるのか。

(宗田部長)

公園は40haある。なお鶴見川クリーンセンターの面積が20haである。公園や鶴見川クリーンセンターは都市計画施設として決められているので、適地選定の対象から外れることになる。

#### **〔候補地選定の際の公募や自治体推薦について〕**

(百武委員)

北アルプス広域連合の候補地選定の事例で候補地抽出にあたって公募や自治体推薦があったとあるが、これらの経緯、動機を教えてください。何か条件を提示しているのか。

(事務局)

具体的に調べた上で報告する。

(宗田部長)

公募や自治体推薦に裏がないか確認してほしい。これからの施設に関しては、室内プールのような地元還元施設が本当に必要なのかということが議論されなければならない。もし必要ということになれば、地元の意向を加味した候補地の選定の基準というものが必要にならないか。現状の地元還元施設を地元がどう感じているのか意見をあげてほしい。

#### **4、施設建設に必要な敷地面積とその組み合わせ**

##### **〔本部会で検討する施設について〕**

(富岡委員)

この部会では熱回収施設、ごみメタン化施設、プラスチック圧縮・減容化ラインについて検討するものと理解していたが、不燃物・粗大ごみ処理施設、資源ごみ処理施設についても並行して検討を進めるのか。

(事務局)

本委員会は一般廃棄物の資源化基本計画を受けてスタートしており総合的に施設を整備していく観点から、それらの施設も含めて検討する。

##### **〔施設の集約化、分散化と必要な敷地面積について〕**

(高橋(倫)委員)

施設を分散して設置する場合は資料に示すように2箇所で決まっているのか。

(事務局)

2箇所で決まっているわけではない。あくまでも分散の例を示しているにすぎない。

(高橋(倫)委員)

1箇所に施設を集約した場合の面積が50000m<sup>2</sup>となっている。この数値は大きく変わることはあるのか。

(事務局)

熱回収施設の処理規模の目安にしたがって面積を概算している。多少の面積の数値の変動は考えられるが、倍になるほど大きく変わることはないと考えている。

(内山課長)

施設を集約すると効率的になる、分散させると面積は多くなる、ということの例を示しており、あくまでも目安である。箇所数にこだわっているわけではない。

(百武委員)

施設ごとに条件が異なるのではないかと。施設ごとに選定手順をあてはめるのか。それとも全ての施設に同じ手順をあてはめるのか。

(事務局)

一次選定の段階では、まず建設可能な用地を選ぶ作業の絞込みを行う。分散か、集約かを考えるのは次の段階となる。

(金田委員)

50000m<sup>2</sup>という面積が一人歩きしてしまうことを懸念する。整備基本計画部会にて、高層化した施設を入れるという話になれば敷地面積は少なくなるのではないかと。整備基本部会でどれだけの土地が必要になるのかということとの整合性を図るべき。

(事務局)

明日の整備基本計画部会に今日の議論の内容を投げかける。その場に出た意見を候補地選定部会に持ち帰る。50000m<sup>2</sup>はあくまで議論の共通のたたき台で、こだわっているわけではない。

(宗田部長)

施設の規模と面積は両部会の議論のすり合わせが必要である。

(富岡委員)

カン、ペットボトル、プラスチックの処理施設については分散も可能ではないかと。

(松波部会長)

その議論については整備基本計画部会との調整が必要である。整備基本計画部会との連動は常に意識する。

## **5、第4回検討委員会におけるご質問事項等への回答**

### **【ごみメタン化施設の敷地面積について】**

(高橋(倫)委員)

北海道の中空知施設の建築面積は、バイオマス貯留施設を除いて5300m<sup>2</sup>とあるが、バイオマス貯留施設とはガスホルダーのことか。またこの施設を含めた場合の面積はどの程度か。また本部会で適地を検討しているごみメタン化施設はガスホルダーのことを指しているのか。ごみメタン化施設の想定面積16000m<sup>2</sup>は爆発等の事故があった場合の許容面積を含んでいるのか。事故があっても被害が及ばない施設の面積はどの程度か。

(事務局)

バイオマス貯留施設を含めた場合の施設の面積は調べる。バイオマス貯留施設やごみメタン化施設

はガスホルダーのことを指している。焼却施設等に比べメタン発酵施設は特性上そこまで危険ではないため、大きな事故は考えていない。現行の施設のエリアでは緑地帯や駐車場等を設置し、離隔をとることで対応している。離隔に関しては規模、形状等が決まってから判断する。

(高橋(倫)委員)

想定外の事故等は考えなくてよいのか。

(事務局)

次世代型の施設は安全が大前提である。現有施設も二重、三重の対策はしてある。

(百武委員)

ごみメタン化施設の面積 16000m<sup>2</sup>はどのように出したのか。敷地面積が決まっていないので、第一次のスクリーニングの際には 50000m<sup>2</sup>以下の適地も出してほしい。

(事務局)

16000m<sup>2</sup>の根拠はない。処理能力の数値は出ているため、他市の発酵施設の事例を踏まえるとこの程度であろうという数値である。候補地選定の目安として出した。

(百武委員)

他市の事例では敷地として 16000m<sup>2</sup>あるのか。

(事務局)

他市の事例ではメタン発酵施設以外も含まれている可能性があるので、あくまでメタン発酵施設として算出した。

## **6、事務連絡**

今後の建設候補地選定部会の開催日程候補日は以下の通りである。

- ・第2回 10月24日 10時～
- ・第3回 11月25日 14時～
- ・第4回 12月14日 14時～

## **7、閉会**